

謡曲の効能

岡野 一元 賛助会員

扇子をもって、正座をして謡うという規律があり、日本人の行儀作法の習慣もあります。さらに、謡われる詞章も、古来の日本の歴史、精神、感情を表現しており、謡に出てくる場面は、歴史上実際にあつた情景であるため、今でも、そこに行けば、その当時をしのばせる景色に出会えます。

謡を始めてから、国内を旅して、謡に出てくる場所に出会うと、環境は変わっているでしょうが、当時を想像して景色を見、詞章を口ずさむこともあります。謡は、戦場での合戦の場面もあります。謡は、多くは、その時の、武将の感情、心境を謡っており、敗者も勝者もなく、心残りなく謡い終えることができます。

謡には、「十五の徳」(後記)があると言われていますが、謡こそ私にとつてやつと見つけた、自分らしい、自分に合った趣味と思つています。日本の文化を継承していく高尚な趣味と思つています。もともと音痴な私でも、練習さえすれば、堂々とできる趣味の一つになりました。

謡は、日本独自の伝統文化で、洋楽には見られない旋律は、まさに日本独特の芸能といつていいと思います。言葉も候文をはじめ、日本独特のきれいな言い方を用い、日本文化の良さを表しています。

また、本来は、紋付を着、袴を付け、

また、敗者は、怨霊、とか幽霊となつて登場し、敗者の心情を弔うことで、成仏し、ハッピーエンドで終わらせる謡が多いのです。これも、日本人の感性というか、宗教観であり、神を祀り、仏教を敬う心を大事にしているところだと思います。

加えて、よく言われることですが、声を出すことは、健康に良いといえます。謡は、のどを震わせて声を出すのでなく、腹から声を出すもので、お経と共に内臓全体に良い影響を与え、と思われまふ。おかげさまで私も、健康で、特に肝臓がよく働き、アルコール

の消化が良く、謡の後のお酒はとてもおいしくいただいています。

一昨年(1997)の6月には「偕行謡曲同好会」第百回記念例会の祈り、靖國神社能樂堂に於いて、正会員及び家族会員の皆様とご一緒に出演させて頂きました。

また、偕行社の文化祭にも初回から熊谷先生はじめ、仲間と一緒に出演させて頂いていただいています。第8回の文化祭では、平家物語特集として、熊野・敦盛・千手・大原行幸の聞かせどころを抜粋して発表しました。

月に2回、お稽古をしています。入会をお待ちしております。

【謡曲十五徳】

一、不行知名所

見ず知らずの名所や旧跡を知ることが
とができる

二、不思登座上

思いがけず高い地位に登ることが
できる

三、不馴近武芸

激しい武芸の修行も積むことが
できる

四、不旅得知音

旅に出ずとも友に巡り合うことが
できる

五、不軍識戰場

危険な戦場に出なくとも勇ましく
戦うことができる

六、不習識歌道

和歌や詩や歌を習わなくても文字
に触れ楽しめる

七、不望衣高住

天上や神々とも交わることもでき
る

八、不詠望花月

歌の才能がなくとも花や月四季
折々の風情を楽しめる

九、不老知古事

老人にならなくても古き良きこと
を知ることができる

十、無友慰閑居

寂しいときも謡で心を慰めること
ができる

十一、不触知仏道

厳しい修行をしなくとも仏の悟
りを知ることができる

十二、不恋慕美人

今恋人がいなくとも美しい人を得
ることができる

十三、不祈得神徳

日頃不信心でも神仏の加護をいた
だくことができる

十四、不棄散鬱氣

鬱々とした気分でも謡曲に浸り気
を晴らすことができる

十五、不嚴嗜形美

厳しくしなくとも形美を身につけ
楽しむことができる